

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

二十一 健康保險組合同規約例

(大正十五年八月二十四日)
官報 彙報 欄 登 載

何健康保險組合同規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ組合員タル被保險者ノ健康保險ヲ管掌スルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ何健康保險組合同稱ス

第三條 本組合ノ事務所ハ左ノ場所ニ之ヲ置ク

(主タル事務所)

何府縣何郡市何町村何番地

從タル事務所

何府縣何郡市何町村何番地

何府縣何郡市何町村何番地

第四條 本組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地左ノ如シ

何會社(何會社何工場)何府縣何郡市何町村何番地

何會社(何會社何工場) 何府縣何郡市何町村何番地

何會社(何會社何工場) 何府縣何郡市何町村何番地

第五條 本組合ニ於テ公示スヘキ事項ハ組合ノ揭示場ニ揭示(何市ニ於テ發行スル何新聞ニ掲載)ス

第六條 本組合ノ帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 組 合 會

健康保險組合同規約例

第七條 本組合ノ組合會議員ノ定數ハ何人トス

第八條 左ニ掲クル者ハ議員タルコトヲ得ス

- 一 十八歳未滿(何歳未滿)ノ者
- 二 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者
- 三 何々

第九條 議員ノ任期ハ何年トス〔但シ事業主タル議員(事業主ノ選定シタル議員)ノ任期ハ無期限(何年)トス〕

議員ノ任期ハ選定又ハ選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

補闕ノ爲選定又ハ選舉セラレタル議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十條 (選舉區ヲ設クル場合ノ規定) 被保險者タル組合員ノ互選スル議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

- 何工場(何事業場) 何人
- 何工場(何事業場) 何人
- 何工場(何事業場) 何人

第十條 理事ハ選舉ノ期日前少クトモ七日間(何日間)投票及開票ノ日時、選舉會場並選舉スヘキ

議員ノ數ヲ公示スヘシ

〔天災事變等ノ爲選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ理事ハ其ノ選舉ヲ行フヘキ選舉區ノミニ關シ更ニ期日ヲ定メ選舉ヲ行フヘシ〕

第十一條 理事(又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者)ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

理事ハ選舉人ノ中ヨリ(一選舉區ニ付)四人(何人)ノ選舉立會人ヲ指名スヘシ

第十二條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ノ交付ヲ受ケ之ニ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投

函スヘシ

投票用紙ハ理事ノ定メタル一定ノ式ヲ用フルモノトス

第十三條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決ス

第十五條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トスヘシ但シ(各選舉區ニ於テ)選舉スヘキ議員ノ數ヲ以テ(其ノ選舉區ノ)有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上(何分ノ一以上)ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シトキハ選舉長抽籤ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 選舉長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第十七條 當選者定マリタルトキハ理事ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内(何日以内)ニ之ヲ理事ニ申出ツヘシ

第十八條 選舉スヘキ議員ノ數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フ

第十九條 當選者當選ヲ辭シタルトキ、選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキ

又ハ死亡者ナルトキハ第十五條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者ヲ以テ順次當選者トス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ得ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第二十一條 第十九條ノ規定ハ當選無効ト確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 被保險者タル組合員ノ互選スル議員中闕員ヲ生シタルトキハ(其ノ選舉區ニ於テ)

補闕選舉ヲ行フ但シ總選舉ノ日ヨリ六月以内(何月以内)ニ闕員ヲ生シタルトキハ第十九條ノ例ニ依ル

第二十三條 事業主ノ選定スル議員ハ補闕議員ヲ除クノ外各議員ニ付同時ニ之ヲ選定スヘシ

議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ事業主ハ遲滯ナク補闕議員ヲ選定スヘシ

第二十四條 (議員ノ選定ハ事業主ノ協議ニ依リ之ヲ爲スヘシ)

事業主議員ノ選定ヲ爲シタルトキハ文書ヲ以テ之ヲ理事ニ通知スヘシ

第二十五條 理事組合會ヲ招集セムトスルトキハ會議ノ目的タル事項、開會ノ日時及場所ヲ、急

施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前(何日前)ニ議員ニ通知スヘシ

議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ

理事ハ七日以内(何日以内)ニ之ヲ招集スヘシ

第二十六條 互選議員又ハ選定議員會議ニ出席スルコト能ハサルトキハ豫メ書面ヲ以テ各互選議

員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 會議ニ出席スルコト能ハサル議員ノ委任ヲ受ケテ表決ヲ爲ス議員ハ委任ヲ受ケタル

コトヲ證スル書面ヲ議長ニ提出スヘシ

第二十八條 組合員ハ組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得但シ組合會ニ於テ傍聽禁止ノ議決アリタ

ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 會議錄ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載ス

一 開會ノ日時及場所

二 議員ノ定數

三 出席シタル互選議員ノ氏名(數)及選定議員ノ氏名(數)

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項及賛否ノ數

六 其ノ他必要ナル事項

第三十條 組合會ハ會議規則ヲ設クヘシ

第三十一條 議員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第三十二條 被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得

サル場合ニ於ケル補償ノ額ハ其ノ受クルコトヲ得サル報酬額ヲ標準トシテ理事之ヲ定メ組合ノ

設立アル事業ニ於ケル報酬支拂日迄ニ之ヲ支給ス

第三章 理事

第三十三條 本組合ノ理事ノ定數ハ何人トス

第三十四條 理事ノ任期ハ何年トシ其ノ選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

補闕ノ爲選舉セラレタル理事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

理事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第三十五條 理事及理事長ノ選舉ハ組合會ノ議決ヲ經テ定メタル方法ニ依ル

第三十六條 理事長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘキ理事ハ理事長之ヲ指名ス

第三十七條 第三十一條及第三十二條ノ規定ハ理事ノ受クヘキ旅費及補償ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 本組合ニ必要ナル事務員ヲ置キ理事之ヲ任免ス

第四章 事業

第三十九條 療養ノ給付ニ關シ被保險者ノ選定シ得ヘキ醫師、齒科醫師及藥劑師ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ指定ス

第四十條 健康保險法施行令第七十七條第一項ニ掲クル場合ノ外左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一 何々

二 何々

第四十條 傷病手當金又ハ出産手當金支給期日ハ毎月何日、何日及何日トス（但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受クル被保險者ニ付テハ毎月何日トス）

前項ノ期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰下ク（繰上ク）

毎支給期日ニ於テ支給スル傷病手當金又ハ出産手當金ハ其ノ支給期日ノ二日前（何日前）迄ニ請求アリタル分トス

第 條 (事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スル場合ノ規定) 保險料額ノ何分ノ何ハ事業主、何分ノ何ハ被保險者ニ於テ之ヲ負擔ス

第 條 (組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付事業主ノ負擔割合ヲ增加スル場合ノ規定) 何々ノ業務ニ使用セララル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ハ其ノ何分ノ何、被保險者ハ其ノ何分ノ何ヲ負擔ス

第 條 (少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ付事業主ノ負擔割合ヲ增加スル場合ノ規定) 報酬日額何々錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ハ報酬日額何々錢以上何々錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ニ付テハ事業主ノ負擔スヘキ額ト同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第五章 財務

第四十一條 豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ

一 保險給付費

二 保健施設費

三 何々

第四十二條 準備金以外ノ財産ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ管理ス

健康保險組合同規約例

一 有價證券ハ郵便局ニ保管ヲ託シ、確實ナル銀行ニ保護預トシ又ハ信託會社ニ信託ス
 二 現金ハ郵便貯金ト爲シ、確實ナル銀行ニ預入レ又ハ信託會社ニ信託ス
 三 前各號ニ掲クル以外ノ財産ノ管理ハ組合會ノ議決ヲ經タル方法ニ依ル

第 條 組合ニ於テ賣買、貸借、請求其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ總テ公告シテ競争ニ付ス但シ契約ノ性質若ハ目的カ競争ヲ許ササル場合、理事ニ於テ競争ニ付スルヲ不利ト認ムル場合又ハ急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキ場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル

(備 考)

本規約ニ記載シタルモノノ外健康保險法施行令第二條第三項、第四條第四項、第五條第三項及第百一條ノ規定ニ依リ規約ニ委任セラレタル事項其ノ他必要ト認メラルル事項ハ別ニ條文ヲ設ケテ之ヲ記載スルコトヲ得

二十二 健康保險審查會ノ名稱、位置及管轄區域

大正十五年十一月二十三日內務省告示第百七十四號
 改正昭和四年四月二十三日內務省告示第百七十七號
 改正昭和四年八月十一日內務省告示第百五十七號
 改正昭和五年十二月十一日內務省告示第百九十七號

第一次健康保險審查會

名稱	位置	管轄區域
北海道第一次健康保險審查會	北海道札幌市 北海道	千葉縣千葉市 千葉縣
東京府第一次健康保險審查會	東京府東京市 東京市	茨城縣水戸市 茨城縣
京都府第一次健康保險審查會	京都府京都市 京都市	栃木縣宇都宮市 栃木縣
大阪府第一次健康保險審查會	大阪府大阪市 大阪府	奈良縣奈良市 奈良縣
神奈川縣第一次健康保險審查會	神奈川縣橫濱市 神奈川縣	三重縣津市 三重縣
兵庫縣第一次健康保險審查會	兵庫縣神戸市 兵庫縣	愛知縣名古屋 愛知縣
長崎縣第一次健康保險審查會	長崎縣長崎市 長崎縣	靜岡縣靜岡市 靜岡縣
新潟縣第一次健康保險審查會	新潟縣新潟市 新潟縣	山梨縣甲府市 山梨縣
埼玉縣第一次健康保險審查會	埼玉縣北足立 埼玉縣	滋賀縣大津市 滋賀縣
群馬縣第一次健康保險審查會	群馬縣前橋市 群馬縣	岐阜縣岐阜市 岐阜縣
群馬縣第一次健康保險審查會	群馬縣前橋市 群馬縣	長野縣長野市 長野縣
宮城縣第一次健康保險審查會	宮城縣仙台市 宮城縣	宮城縣仙台市 宮城縣

健康保險審查會ノ名稱、位置及管轄區域

福島第一健康 保險審査會	福島縣 福島市	福島縣	山口第一健康 保險審査會	山口縣 山口市	山口縣
岩手第一健康 保險審査會	岩手縣 盛岡市	岩手縣	和歌山第一健康 保險審査會	和歌山縣 和歌山市	和歌山縣
青森第一健康 保險審査會	青森縣 青森市	青森縣	德島第一健康 保險審査會	德島縣 德島市	德島縣
山形第一健康 保險審査會	山形縣 山形市	山形縣	香川第一健康 保險審査會	香川縣 高松市	香川縣
秋田第一健康 保險審査會	秋田縣 秋田市	秋田縣	愛媛第一健康 保險審査會	愛媛縣 松山市	愛媛縣
福井第一健康 保險審査會	福井縣 福井市	福井縣	高知第一健康 保險審査會	高知縣 高知市	高知縣
石川第一健康 保險審査會	石川縣 金澤市	石川縣	福山第一健康 保險審査會	福山縣 福山市	福岡縣
富山第一健康 保險審査會	富山縣 富山市	富山縣	大分第一健康 保險審査會	大分縣 大分市	大分縣
鳥取第一健康 保險審査會	鳥取縣 鳥取市	鳥取縣	佐賀第一健康 保險審査會	佐賀縣 佐賀市	佐賀縣
島根第一健康 保險審査會	島根縣 松江市	島根縣	熊本第一健康 保險審査會	熊本縣 熊本市	熊本縣
岡山第一健康 保險審査會	岡山縣 岡山市	岡山縣	宮崎第一健康 保險審査會	宮崎縣 宮崎市	宮崎縣
廣島第一健康 保險審査會	廣島縣 廣島市	廣島縣	鹿兒島第一健康 保險審査會	鹿兒島縣 鹿兒島市	鹿兒島縣

沖繩第一健康 保險審査會	沖繩縣 那覇市	沖繩縣	第三次健康保 險審査會	東京府 東京市	北海道及 各府縣
第二次健康保險 審査會			第三次健康保 險審査會		
名	稱	位	置	管	轄
名	稱	位	置	管	轄
名	稱	位	置	管	轄

二十三 健康保險審査會職員旅費手當支給規則

(昭和二年十一月二日
勅令第三百十四號)

第一條 健康保險審査會ノ會長及委員其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏タル者ニハ其ノ本
官相當ノ旅費ヲ、其ノ他ノ者ニハ別表ニ依ル旅費ヲ支給ス但シ第三條ノ規定ニ依リ日當ヲ受ク
ル場合ニ於テハ別表ニ依ル日當ヲ支給セズ

第二條 本令ニ依ル旅費ハ會議ノ爲召集セラレタル場合ニ於テハ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以
内ノ地ニ居住スル者ニハ之ヲ支給セズ

第三條 健康保險審査會ノ委員其ノ職務ヲ執行シタルトキハ第一次健康保險審査會ノ委員ニ對シ
健康保險審査會職員旅費手當支給規則

テハ七圓、第一次健康保險審査會ノ會長及第二次健康保險審査會ノ委員ニ對シテハ十圓、第三次健康保險審査會ノ委員ニ對シテハ十五圓ノ日當ヲ支給ス但シ官吏ニシテ委員タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ内國旅費規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和二年九月二十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

別表

種別	及鐵道 船賃	車馬賃(一里)	日當(一日)	宿泊料(一夜)	食卓料(一食)
第一次健康保險審査會委員	二 等	七十五錢	三 圓	五 圓	二 圓
第二次健康保險審査會委員	二 等	九十錢	五 圓	八 圓	二圓五十錢
第三次健康保險審査會委員	二 等	一圓二十錢	六 圓	九 圓	三 圓

(備考) 鐵道賃及船賃ハ運賃等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ區分セザル
場合ニハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃トス

二十四 口頭審問ノ爲健康保險審査會ニ出頭シタル

者ニ對スル旅費支給ノ件 (昭和二年四月四日内務省令第二十一號 改正昭和五年五月一日内務省令第十五號)

第一條 健康保險審査會ニ口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、陸路雜費、車馬賃、宿泊料及食卓料ノ六種トシ各其ノ順路ニ依リテ之ヲ支給ス但シ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ハ實際ノ經路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃及水路旅行ニハ船賃ノ各其ノ最低賃金ニ相當スル額ヲ支給ス 銀道八十五軒以上、水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ前項ノ額ノ外普通急行料金を支給ス但シ急行料金を徴セサル線路又ハ航路ニ依ル旅行ニアリテハ此ノ限ニ在ラス

第四條 陸路旅行ニハ一里毎ニ陸路雜費十錢ヲ支給ス但シ片道一里未滿ノ陸路旅行ニ付テハ之ヲ支給セズ

陸路旅行ノ場合ニ於テ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

口頭審問ノ爲健康保險審査會ニ出頭シタル者ニ對スル旅費支給ノ件

第五條 不具、癱疾、傷痍、疾病等ノ爲歩行シ能ハサルトキハ其ノ陸路旅行ニ付テハ一里毎ニ車馬賃五十錢ヲ支給ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

前項ノ場合ニ於テハ陸路雜費ヲ支給セス

第六條 宿泊料ハ一夜ニ付二圓ヲ支給ス但シ水路旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

第七條 食卓料ハ船賃ノ中ニ食費ヲ含マサルトキ又ハ官用ノ船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ一夜ニ付一圓ヲ支給ス

第八條 車馬賃ヲ請求セムトスルトキハ不具、癱疾、傷痍、疾病ノ爲歩行シ能ハサル旨ノ醫師ノ診斷書ヲ請求書ニ添附スヘシ

第九條 旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ至ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス此ノ場合ニ於テハ陸路旅行ニ付テハ第五條ノ例ニ依ル

第十條 内國旅費規則第五條及第七條ノ規定ハ本令ニ依ル旅費ノ支給ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和五年五月一日内務省令第十五號)

本令ハ昭和五年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

二十五 健康保險特別會計法

(大正十五年三月二十九日法律第二十六號 改正昭和四年三月二十八日法律第十二號)

第一條 健康保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、一般會計ヨリ繰入ルル金額、積立金ヨリ生スル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險給付費、保健施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 前條ノ一般會計ヨリ繰入ルル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル但シ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ保險料ヲ以テ保險給付費及保健施設費ヲ支辨スル能ハサル場合ニ借入ルルモノヲ除クノ外最高五百萬圓トス

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金又ハ繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第九條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年三月二十八日法律第十二號)

本法ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

二十六 健康保險特別會計規則

(昭和元年十二月二十九日勅令第四號) (改正昭和四年四月一日勅令第三十五號)

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細録ヲ添附スベシ

第二條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣社會局長官ニ命ジテ之ヲ執行セシムベシ但シ他ノ官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額及一時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍不足アルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ對シ一時借入金ニ代ヘ國庫餘裕金ノ繰替使用ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第五條 保険料収入ノ年度所屬ハ其ノ保険料ヲ負擔スベキ義務ノ發生シタル日ノ屬スル年度ニ依ル

第六條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入済又ハ支出済ト爲ラザルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出トス

第七條 (削除)

第八條 健康保険特別會計法第三條第一項ニ規定スル被保険者ノ員數ノ計算ニ付テハ健康保険法施行令第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第九條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ社會局長官ニ送付スヘシ

第十條 社會局長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 支出官ハ毎月支出済額報告書ヲ調製シ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十二條 社會局長官ハ支出済額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出済額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額及翌年度繰越額ヲ控除シタル残餘ハ總テ

之ヲ積立金ニ組入ルベシ

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條 社會局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ健康保険ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條 社會局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スベシ

第十七條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及残額ヲ登記スベシ

第十八條 社會局ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及残額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出済額及残額ヲ登記スヘシ

第十九條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和四年四月一日勅令第三十五號)

本令ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

二十七 健康保險特別會計事務取扱規程

昭和元年十二月三十日
改正 昭四年七月三十一日
內務省訓令第二十一號
內務省訓令第十一號

社 會 局

應 府 縣 (東京府ヲ除ク)

北海道廳出張所

- 第一條 健康保險特別會計ニ關スル事務ハ本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
- 第二條 歳入ノ徵收ニ關シテハ社會局長官、北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事(東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ)ヲ歳入徵收官トス
- 第三條 歳入徵收官ハ保險料、督促手数料及延滞金ノ徵收ニ付テハ徵收補助簿ヲ備ヘ各納人別ニ納人ノ住所氏名、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額及調定濟、收入濟又ハ不納缺

損處分ノ年月日其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

前項ノ徵收補助簿ハ之ヲ各郡市區別ニ編綴シ其ノ末尾ニ計ヲ附スヘシ

- 第四條 歳入徵收官ハ日本銀行國庫金取扱規程第十三條ノ規定ニ依ル領收濟通知書及領收濟報告書(本規程第十五條ニ依リ原符ヲ以テ代用スル場合ニ於テハ其原符)ニ基キ收入濟額日計表ヲ作製スヘシ

第五條 歳入徵收官日本銀行ヨリ領收濟通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ額ヲ支出官ニ通知スヘシ

第六條 歳入徵收官ハ調定超過ニ依ル過納又ハ調定外誤納ヲ生シタル場合ニ於テハ過誤納額整理簿ヲ備ヘ年度、科目、金額、事由、納人ノ住所氏名、還付又ハ充當ノ顛末其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

第七條 歳入徵收官ハ健康保險法第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ滯納處分ヲ市町村ニ請求シタル場合ニ於テハ處分請求滯納者整理簿ヲ備ヘ年度、科目、金額、納期、請求市町村、滯納者ノ住所氏名、督促狀發付年月日及指定期限其ノ他必要ナル事項ヲ登記シ處理ノ顛末ヲ明瞭ナラシムヘシ

第八條 歳入徴收官不納缺損處分ヲ爲シタルモノニ付テハ納人ノ住所氏名、科目、金額、事由及
保険料ニ付テハ所屬年月等ヲ記載シタル書類ヲ徴收報告書ニ添付スヘシ

第九條 歳入徴收官ハ會計規則第七十三條ニ依リ歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ會計
規則第七十五條ニ依リ其ノ長官ヨリ年三回（自四月至八月、自九月至十二月、自一月至四月各
期間分）毎翌月十五日迄ニ會計検査院ニ送付スヘシ

第十條 保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ主務官廳ハ社會局、北
海道廳、北海道廳出張所及府縣（東京府ニ在リ）トス

第十一條 毎年度ノ支拂豫算ハ社會局長官、北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事ニ之ヲ
令達ス

第十二條 支出官（社會局長官タル）ハ歳入金ノ受入ニ依ル支拂元受高ヲ社會局長官タル支出官ノ支
拂元受高ニ轉換ヲ爲シ其ノ旨直ニ社會局長官ニ通知スヘシ但シ差當リ支拂ニ必要ナル資金ハ此
ノ限ニ在ラス

第十三條 支出官（社會局長官タル）當該年度最終ノ小切手ヲ振出シタルトキハ直ニ其ノ支拂元受高
ノ殘額ヲ社會局長官タル支出官ノ支拂元受高ニ轉換シ其ノ金額及當該年度ノ支出濟總額ヲ社會

局長官ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事ハ別記様式ニ依リ歳入歳出決定計算報告
書ヲ調製シ翌年度六月十五日迄ニ之ヲ社會局長官ニ送付スヘシ

社會局長官ハ前項ノ報告書及自己ノ取扱ニ依ル分（前項別記様式ニ依ル）ヲ取纏メ歳入歳出決
定計算報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ内務大臣ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏納入告知書ニ依ラスシテ現金ヲ領收シタル場合ニ於ケル領收濟報告書ハ現金
領收證書ノ原符ヲ以テ代用スヘシ

第十六條 出納官吏ノ帳簿及金櫃ノ検査員及立會人ハ出納官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ
第十七條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ大正十一年四月内務省訓令第二號會計事務取扱規程ニ

依ル但シ同令第十二條及第十七條ニ内務大臣トアルハ社會局長官トス

附則

本規程ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和四年七月三十一日内務省訓令第十一號）

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

健康保險特別會計事務取扱規程

別記様式

昭和何年度健康保険特別會計歳入歳出決定計算報告書

歳入

科	目	測定済額	収入済額	不納缺損額	収入未済額	備考
何々	(款)					
何	々(項)					
合	計					

備考

社會局ニ於テ總報告書調製ノ場合ハ豫算額及豫算額ニ比シ収入済額ノ差額ヲ設置スルコト

歳出

科	目	豫算額	流用増減額	豫算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	備考
何	々(款)							
何	々(項)							
計	何							

備考

流用増減額、不用額及翌年度繰越額アル場合ハ各目ニ付其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スルコト

二十八 保険料其ノ他健康保険法ノ規定ニ依ル徴收金滞納處分ノ爲差押ヘタル物品取扱方ノ件

(昭和四年八月一日
内務省訓令第十七號)

社會局 廳府縣(東京府ヲ除ク)
北海道廳出張所

保険料其他健康保険法ノ規定ニ依ル徴收金滞納處分ノ爲差押ヘタル物品ニシテ其廳ニ於テ保管スルモノハ物品會計規則ヲ準用スルコトヲ指定ス

二十九 健康保険積立金運用規則 (昭和五年二月二十七日
勅令第三十四號)

第一條 健康保険特別會計法ニ依ル積立金ハ内務大臣之ヲ管理スベシ

第二條 積立金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

保險料等ノ滞納處分ノ爲差押ヘタル物品ハ物品會計規則準用ノ件
健康保險積立金運用規則

第三條 所管大臣ハ部下官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得
第四條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

預金部資金運用規則

改正昭和十四年四月十一日勅令第五十五號
昭和十五年二月二十七日勅令第三十五號
昭和十六年八月二十六日勅令第二百二十九號
昭和十七年十一月勅令第三百三十三號

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ

- 一 國債ノ應募、引受若ハ買入又ハ一般會計若ハ特別會計ニ對スル貸付
- 二 地方債若ハ健康保險組合債ノ應募、引受若ハ買入又ハ地方公共團體若ハ健康保險組合ニ對スル貸付
- 三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ債權ヲ發行スルモノノ發行ニ係ル債券ノ應募、引受若ハ買入又ハ此等ノ法人ニ對スル三年内ノ貸付
- 四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付
- 五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入

六 日本銀行ニ對スル在外指定預金

第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月内ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ

前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外預金部資金ノ運用ノ爲必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應シ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得

第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 大藏政務次官
 - 二 大藏次官
 - 三 關係各廳高等官
 - 四 會計検査院部長
 - 五 日本銀行總裁
 - 六 學識經驗アル者
- 前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク

幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命シ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク

書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

昭和八年二月十八日印刷
昭和八年二月二十日發行

定價金參拾錢

財團法人 產業福利協會

代表者

蒲生俊文

印刷人

松井方利

印刷所

東京印刷株式會社
東京市深川區白河町四丁目一番地ノ一

不許複製

東京市麹町區大手町社會局内
電話九ノ内 四七四八
振替口座東京七四四四七

財團 法人 産業福利協會寄附行爲拔萃

第一章 名稱

第一條 本協會ハ財團法人産業福利協會ト稱ス

第二章 事務所

第二條 本協會ハ事務所ヲ東京市麹町區大手町社會局構内ニ置ク

第三章 目的事業

第三條 本協會ハ災害ノ防止、衛生ノ改善、能率ノ増進其ノ他産業福利ニ關スル知識ノ普及ヲ圖リ産業福利事業ノ健全ナル發達ヲ期スルヲ目的トス

第四條 本協會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ各號ニ掲クル事業ヲ行フ

一、労働者ノ安全、衛生其ノ他福利施設ニ關スル研究及指導誘掖ヲ爲スコト

二、労働法制、社會保險ニ關スル知識ノ普及ヲ爲スコト

三、内外ニ於ケル産業福利ニ關スル調査研究ヲ爲スコト

四、講習會、講演會、展覽會等ノ開催ヲ爲スコト

五、機關雜誌及圖書又ハ印刷物ヲ刊行スルコト

六、博物館ヲ設クルコト

七、其ノ他必要ト認ムル事項

第五章 會員

第十條 本協會ノ會員ヲ賛助會員、維持會員、通常會員ノ三種トス

一、賛助會員ハ特別ノ出資其ノ他ノ方法ニ依リ本協會ノ事業ヲ援助スル者ニ就キ會長之ヲ推薦ス

二、維持會員ハ年額金五拾圓以上ヲ繳金スルモノトス

三、通常會員ハ年額金拾圓ヲ繳金スルモノトス

第十一條 通常會員ニハ定期刊行物、パンフレット及ポスターヲ配付ス維推會員及賛助會員ニハ本會發行ノ圖書、定期刊行物、パンフレット、ポスター等ノ刊行物ヲ配付シ並ニ災害豫防、労働衛生、福利施設等ニ關スル参考品貸與其ノ他特別ナル便宜ヲ供與ス

第十二條 會費ハ毎年四月末日迄ニ納付スルモノトス但シ新ニ入會スルモノハ入會ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ之ヲ納付スルモノトス

第十三條 會員ノ氏名住所（團體ニ在リテハ其ノ名稱目的、所在地若ハ代表者）ニ異動ヲ生シタル時ハ直チニ其ノ旨届出ツルコトヲ要ス

産業福利協會事業

刊行物

一 月刊雜誌「産業福利」

二 産業福利パンフレット

三 産業福利ポスター

四 労働立法・衛生・安全・福利一般其他の事項に關する印刷物

五 社會局出版物の取次
(労働時報健康保険時報其他)

集會

一 講習會の開催

二 講演會・研究會の開催

三 展覽會の開催

四 講演會及展覽會の斡旋

映畫

一 フィルム及幻燈寫眞の貸付

二 優良映畫の推奨

懸賞募集

一 ポスター圖案及標語

二 小説及劇筋書

三 發明考案

安全及衛生に關する運動及指導

一 安全週間・衛生週間の舉行

二 安全委員・福利係の獎勵指導

三 功勞者表彰

地方同種團體の聯絡



